

## 第2学年 学年別授業研究会の取組

### ☆協議の柱

○本時目標に沿った児童の思考を促す足場作りはどうだったか。

○グループ学習で、全員が学び合いに参加しているか。

2年生は、算数教科書の「わくわく算数学習」の単元で、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方など、算数学習の進め方を確かめ合った。子どもたちは、図や式に表すことには意欲的であるが、どのように説明すればいいかわからないという子どもも多かった。そこで、5月後半からグループ学習を取り入れ、全員が主体的に参加できる算数授業を目指してきた。

まず、全員が考えることのできる土台に立てるまでの足場作りが大切であると考え、試行錯誤しながら取り組んできた。気付きや見通しを問うても数名しか手が挙がらない時には、ペア相談をさせてからもう一度問い直したり、全員で共有したい考えは復唱させたりした。しかし、時間がかかり過ぎてしまい、適用題や振り返りができなくなることもあった。

グループ学習では、理解や行動の早い子どもだけで進んでしまうことのないように、授業時間ごとに順番にホワイトボードに書く役を決めたり、全員でリレー発表を行ったりするなどの約束を決めて取り組んできた。

グループ学習に取り組みはじめてから、子どもたちの反応や感想は以下のようなものである。

- ・今日もグループ学習するんですか。やったあ。
- ・みんなが発表できてよかったです。
- ・自分が発表できてうれしかった。
- ・4班さんの説明がじょうずだった。すごいな。
- ・Aさんがいい考えを出してくれてよくわかりました。

これらの言葉からわかるように、グループ学習をすることによって、子どもたちは、安心して発表できたり、いっしょに考えることを楽しんだりすることができている。

しかし、まだまだグループ学習に慣れていない状況から、どうしても時間がかかりすぎてしまい、適用題の問題解決や振り返りをする時間が確保できないことが課題であった。毎時間、多少時間を延長しても、「まとめ、適用題、振り返り」までの学習の流れをパターン化して実施することの積み重ねで、時間短縮が可能になってきたところである。

全体交流場面では、まず形から入り、黒板の前に集まり、発表をしっかりと聞くことの指導から行った。はじめはおしゃべりをする姿も見られたが、さっと前に集まり、ボードを見て比べたり考えたりするようになってきた。しっかりと聞くことを意識させるために、発表の中の大事な部分を全員に復唱させたり、ペアで伝え合わせたりしている。

発表は、班の全員がボードにかいたことをリレーして説明している。かいている通りに読むだけの場合もあるが、図を指示しながら言葉を付け加えたり、「～ですね。」などの問いかけの言い方をしたりできるようになってきた。また、「まず、つぎに」などの順序を表す言葉を使って説明できる子どもも多くなってきた。

しかし、全体交流場面での学び合いは、まだまだ教師主導で行っており、気付かせたいことや大事なことを指摘する場面もある。今後は、発表に対してわからないことを質問したり、つなげて意見を言ったりできるように、十分に時間も確保しながら、子どもたちを鍛えていきたい。